



# 今こそ考えたい、「生きること」

## 4人の講師が自分史語る連続講座

◎チラシあり

各分野で活躍する4人の講師が自らの生き様を語る連続講座「生きること」を10月15日（木）・29日（木）・11月5日（木）・17日（火）のいずれも午後2時30分からラポールひらかたの大研修室で開催する。昭和53年（1978年）から始まり、今年で43年目となる同講座は、これまで191回開講され、講師も200人を超える。毎年異なるテーマで講師を招き、体験や生き方などの「自分史」を語ってもらうことで、参加者が人権について考える機会を提供している。現在、枚方人権まちづくり協会で申し込み受け付け中。無料。先着各72人。

### ★講座内容

- ① 10月15日（木）「娘が不治の難病と診断されました～『レット症候群』をご存じですか」  
講師：認定NPO法人レット症候群支援機構 代表理事 谷岡 哲次さん  
1～1万5000人に一人の確率で発症する「レット症候群」という不治の病への支援活動など。
- ② 10月29日（木）「米軍人の父とウチナーンチュの母の子として生まれて～人との出会いの中で沖縄と向き合えるように」  
講師：大矢 和枝さん  
自らの生まれやふるさとに対する思いなど。
- ③ 11月5日（木）「在日3世としてウトロに関わって～そこから見えた人権と日本社会」  
講師：南山城同胞生活相談センター 代表 金 秀煥（キム スファン）さん  
在日外国人が多く住む京都のウトロ地区において、在日外国人が直面する様々な問題など。
- ④ 11月17日（火）「人は人によって救われる～25年間の震災ボランティア活動から」  
講師：NPO法人阪神淡路大震災よろず相談室 前理事長 牧 秀一さん  
阪神淡路大震災のボランティア活動での体験など。

### ★申し込み

ファクスまたは電子メールにふりがな付き氏名・電話番号、イベント名、講座名、手話通訳・要約筆記・生後6カ月～就学前児の保育（各講座先着4人）希望の有無を明記で枚方人権まちづくり協会へ。電話可。先着各72人。手話通訳・要約筆記・保育は各講座1週間前までに申し込みが必要。1講座のみの参加可。

<問い合わせ>

特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会 ☎072 - 844 - 8788 FAX 072 - 844 - 8799

Email [hirakatajinkenkyokai@wing.ocn.ne.jp](mailto:hirakatajinkenkyokai@wing.ocn.ne.jp)

「娘が不治の難病と診断されました  
～「レット症候群」をご存じですか」

第1回

10月15日(木)

認定NPO法人レット症候群支援機構 代表理事 たにおか てつじ 谷岡 哲次さん

「米軍人の父とウチナーンチュの母の子として生まれて  
～人との出会いの中で沖縄と向き合えるように」

第2回

10月29日(木)

東大阪市在住 おおや かづえ 大矢 和枝さん

令和2年度(2020年度) ～一人称で語る自分史～

生きること



「在日3世としてウトロに関わって  
～そこから見た人権と日本社会」

第3回

11月5日(木)

南山城同胞生活相談センター代表 きむ すぶあん 金 秀煥さん

「人は人によって救われる  
～25年間の震災ボランティア活動から」

第4回

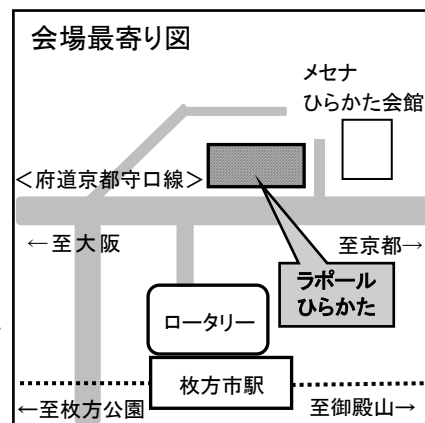
11月17日(火)

NPO法人 阪神淡路大震災よろず相談室 前理事長 まき しゅういち 牧 秀一さん

- 会場 ラポールひらかた 4階 大研修室
- 時間 各講座 午後2時30分～4時30分
- 定員 各講座 先着72人
- 参加費 無料 ※1講座のみの参加もできます
- 参加申込 9月8日(火) 午前9時から、電話またはファックス・電子メールで受付開始  
※ファックス、電子メールの場合は、以下の必要事項を明記してください。

- 必要事項 ①イベント名 ②講座名 ③名前(ふりがな)  
④電話番号 ⑤保育(生後6か月～就学前児、各講座先着4人)、及び手話、要約筆記希望の有無

- 申込・問合せ先 特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会  
電話 072-844-8788 FAX 072-844-8799  
Email hirakatajinkenkyokai@wing.ocn.ne.jp



※新型コロナウイルス感染予防のため、会場内でのマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保等について、ご理解とご協力をお願いいたします

主催 枚方市、枚方市教育委員会、特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会

令和2年度(2020年度) 講座 「生きること」 ～一人称で語る自分史～

講師からのメッセージ

第1回 10月15日(木)

「娘が不治の難病と診断されました～『レット症候群』をご存じですか」

認定NPO法人 レット症候群支援機構 代表理事 谷岡 哲次さん

「レット症候群」という女の子に発症する不治の難病を知っていますか？  
私は、我が子とその診断を受けた時、自分自身の無力さを知りました。  
何よりも大切な娘の「命」そして「人生」がこの先どうなるのか？  
親として子供のために出来る事は何かあるのか？  
私の選んだ道をご紹介致しますので「命」に向き合うきっかけになれば幸いです。

第2回 10月29日(木)

「米軍人の父とウチナンチュの母の子として生まれて  
～人との出会いの中で沖縄と向き合えるように」

東大阪市在住 大矢 和枝さん

戦後間もなく私は生まれました。父は米国人で、その頃、私のような立場の子どもたちはそれほど多くなく、理解、受け入れが容易ではない状況の中で育ちました。  
自信の持てない出自に悩み、ふるさとにも目をそむけていましたが、時を経て、今、ふるさと、そして後輩への素直な思いを語る事が出来るようになりました。

第3回 11月5日(木)

「在日3世としてウトロに関わって～そこから見えた人権と日本社会」

南山城同胞生活相談センター 代表 金 秀煥さん

在日コリアン3世として日本で育ち、コリアンコミュニティの中で「何不自由無く」育ててきたと思っていました。社会に出て様々な問題に触れることにより、「不自由が当たり前」になっていることに気づきました。強制立ち退きという大変な状況を乗り越えたウトロ地区で勤務する者として思うこととお話しします。

第4回 11月17日(火)

「人は人によって救われる～25年間の震災ボランティア活動から」

NPO法人 阪神淡路大震災よろず相談室 前理事長 牧 秀一さん

学生の頃、テニスばかりしていた思い出がある。おまけに定時制高校の存在すら知らずに神戸市の教師になる。  
このような私が、なぜ25年間震災被災者のもとに足しげく通うようになったのか。  
人は、その置かれた環境で、進む道を変えられるのだと今、つくづく思っている。そこらあたりを中心にみなさんと一緒に考えていきたい。

